



3学期～各学年のまとめを～

3学期がスタートして10日余りが過ぎました。子どもたちは寒さに負けず元気に登校し、学校生活を送っています。新型コロナウイルス感染症は現在のところ収まっておりませんが、インフルエンザと併せて、引き続き拡大予防に努めながら、本年度残された様々な活動を進めてまいります。

2月・3月の登校日数は1～5年生が31日、6年生は32日です。残りわずかとなった現在の学年の「まとめ」を確実にやり、意欲をもって次の学年に向かうことができるよう、指導・支援にあたります。2月7日には授業参観と学年懇談会が予定されております。参観人数の制限はさせていただきますが、ぜひご来校いただき、お子様の活動の様子をご覧いただきたいと思っております。そして、懇談会においては来年度を見据え、前向きな話し合いをお願いできればと考えております。

まだまだ先行きが不透明な部分も多く残されています。その中で、国や県、花巻市の方針を受けながら、何よりも「子ども達のために」というスタンスを崩すことなく学校を運営していきます。保護者の皆様からのご理解ご協力を、引き続きよろしくお願ひいたします。

子どもたちの体力は？

昨年末、スポーツ庁より「令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果のポイント」が示されました。主な内容は以下のとおりです。

【体力合計点】

- 体力合計点については、令和元年度調査から連続して小・中学校の男女ともに低下した。
※令和2年度は、感染症の影響により調査を中止。
- 小学校5年から中学校2年に至る3年間の記録の伸びについて、令和4年度までの約10年間でみると、身体的成長も含め毎年同程度伸びているが、20mシャトルランや上体起こしなどについては近年伸びが鈍化している。

【低下の要因】

- 低下の主な要因としては、
 - ① 1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合は、増加しているものの、以前の水準には至っていないこと
 - ② 肥満である児童生徒の増加
 - ③ 朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイム増加※などの生活習慣の変化のほか、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスク着用中の激しい運動の自粛なども考えられる。

※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間



【実技テスト種目別の状況】

- 令和3年度と比較し、
 - ・「50m走」「20mシャトルラン」中学校の「持久走」「上体起こし」及び「反復横とび」は低下。
 - ・「長座体前屈」は向上。
 - ・「立ち幅とび」について、小学校は低下、中学校男子は調査開始以来の最高値、女子は低下。
 - ・「握力」「ボール投げ」は、ほぼ横ばい。

【運動やスポーツに対する意識】

- 運動が好き、と答えた児童生徒は令和3年度より増加したが、以前の水準には戻っていない。 体育が楽しい、と答えた児童生徒は令和3年度より増加し、小学校では以前の水準に戻り、中学校では過去最高となっている。

このように全国的には「体力の低下」が明らかです。本校の調査結果を見ても、当然個人差はありますが、決して「高い」とはいえない状況です。低下している全国と比較して9割～同程度の数値となっています。種目別では「50m走」「20mシャトルラン」に加え、「握力」「立ち幅とび」が全国比で若干マイナスとなっています。その中でも「握力」については、全国比マイナス11～23ポイントであり、改善に向けての積極的な取組が大きな課題になると捉えております。

体育授業での運動時間の確保と活動内容の工夫、積極的な外遊びの奨励、60プラスプロジェクト（県教委で進めている、運動習慣、食習慣及び生活習慣の形成を一体的に捉えた取組）の推進等の取組と共に、来年度より始まる学校運営協議会を通して、学校と家庭・地域の連携をより一層深めながら、よりよい運動習慣の形成を目指していきたいと考えています。

おめでとう

第41回全国児童画コンクール

入選

2年 ・ 二上 紅晴

1年 ・ 鈴木 結万



第32回日専連全国児童版画コンクール(盛岡地区)

🏠 全国展にも出品されます

日専連盛岡理事長賞

4年 ・ 関 奏人

奨励賞

4年 ・ 照井 琉斗

入選

4年 ・ 山本 陽貴

・ 藤原 由麻

・ 木戸口 龍

・ 村井 実梨

・ 齋藤 結和

・ 平賀 千丈

【関奏人さんの作品 審査講評】

審査員一同この作品を見た時、「これぞ東北の顔」「棟方志功もかくや」と絶賛。このまま、このような東北人を続けて表現していったら素晴らしい作品ができると思います。太い輪かく線と、下ぶくれの顔、意志の強そうな唇、先を見とおす眼力、白と黒の面積の割合など、とてもよい作品となりました。